

## ○ ディクテーションの進め方を工夫しよう

ディクテーションは音声と文字を統合させる活動として有効である。教科書で既習の英文を使うと取り組みやすい。また、答え合わせの前に、自分で答をチェックする段階を設けて見直す能力を高めたい。その際、「文脈に合っているか」、「語句の使い方や文型は正しいか」、「綴りや符号は正しいか」などの視点から見直させるとよい。

### 【例1】

- (1) できるだけ自然なスピードの英語を、内容把握に集中して1回聞く。
  - (2) 1回目と同じ英語を聞き、書き取る。聞き取れない英語があっても、途中で立ち止まらない。
  - (3) これまで聞き取れなかったところに焦点を合わせて聞く。
  - (4) 答えを書き、自分で見直す。
  - (5) 書いた英文を見ながら聞く。間違いがあれば直し、答え合わせをする。
- ※ 生徒の力に配慮して、解答用紙を工夫するとよい。

### 【例2】

- (1) 下の例のような既習で理解ができている文章（前の学年の教科書の本文等）を事前に繰り返し音読したり、書いたりして練習する。
- (2) 指導に当たっては、教師は文章を最初から読んでいき任意の場所で読むのを止める。生徒は教師が読んだ最後の1文を書き取る。
- (3) 答えを自分で見直した後、答え合わせをする。教師がチェックしてもよい。  
（教師が／で読むのを止めたとすると、生徒は下線部の文を書き取る。）  
（英文例） I came from Canada to study Japanese culture. I think Japan is much like a Western country. Japan must remember that it is part of Asia. /

## ○ 段階を分けて取り組みやすく工夫しよう

英文で自分の思いを表現する指導に当たっては、書くことへの抵抗感を減らすため、生徒が選択できるように段階をいくつかに分けるなど、生徒の力に応じた配慮がほしい。例えば、自己紹介の文を書かせる活動では、下のよういくつかの段階を設け、少しずつ達成感を持たせながら活動を進めるとよい。ひととおり書き終えたら、自分の英文を見直させ、よりよい表現を求める態度を養いたい。

また、原稿を覚えて発表すると、「話すこと」との関連を図ることができる。

ステップ1 教科書の自己紹介についての本文などの、一部の単語を書き換える。

ステップ2 英文の骨組み（主語＋動詞などの語順）を自分で考えて書く。

ステップ3 次のような条件に合わせて書く。

「自己紹介の文を、①名前、②一番好きな教科、③好きなもの、④友達のことなどを含めて書きなさい。」

ステップ4 テーマに従って、内容を生徒自身で考えて書く。

- 《参考文献》 中学校外国語指導資料「コミュニケーションを目指した英語の指導と評価」 文部省（1993）  
 巽 俊二「新人教師のための英語指導ABC」『英語教育』（1995・8月、1995・10月、1996・12月）  
 大内由香里「話すことに力を入れた授業」『楽しい英語授業』 明治図書（1996・1月）  
 長 勝彦編著「英語教師の知恵袋 上巻」 開隆堂（1997）